

新たな「富田林市総合ビジョン及び総合基本計画」の策定方針

1.新ビジョン策定の趣旨

人口減少の進行、物価高騰、自然災害の激甚化・頻発化に加え、「こどもまんなか社会」の実現、高齢者人口がピークを迎える「2040年問題」への対応など、市民生活も含めて、本市を取り巻く環境は大きく変化しており、本市の行財政運営は、一層厳しさを増すことが想定されます。

このような状況のもと、多様化・複雑化する課題に的確に対応していくためには、基礎自治体としての機能を維持・強化しつつ、長期的な指針のもとで、引き続き総合的かつ計画的に施策を展開していく必要があります。

本市が持つ価値と可能性に目を向け、2040年を見据えた新たな市の将来像と、その実現に必要な施策を取りまとめた、新たな「富田林市総合ビジョンおよび総合基本計画(以下「新ビジョン」といいます。)」を策定します。

2.新ビジョン策定にあたっての基本的な視点

(1)多様な主体の参画によるビジョンづくり

▶ 幅広い主体との協働を重視し、さまざまな市民参画の機会を設けます。特に次世代を担う若者や子育て世代の積極的な参画を推進します。

(2)市民には「読みやすく」、市職員には「使いやすい」ビジョンづくり

▶ 市民には、市の目指す未来が直感的に伝わるよう、分かりやすさを重視します。市職員には、日々の業務を行う上で活用しやすいビジョンを目指します。

(3)実効性の高いビジョンづくり

▶ 具体的な目標と指標を設定し、毎年点検・見直しを行うことで、実効性のあるビジョンを目指します。

(4)重点事項や優先順位が明確で、戦略性を有するビジョンづくり

▶ 市政全般を網羅しつつも、持続可能なまちづくりの実現に向けて重点的・優先的に取り組むべき施策を明確にし、限られた人材や財源等を効率的に配分する仕組みを目指します。

3.新ビジョンの構成と計画期間

新ビジョンは、現行ビジョンの構成を引き継ぎ、「総合ビジョン」、「総合基本計画」、「実施計画」の三層構造をベースとして検討します。

<新ビジョンの計画期間>

令和10(2028)年度～令和21(2039)年度の12年間

・「2040年問題」と言われる人口構造の変化を視野に入れ、次世代も含めた長期的な視点で、市の目指す姿と取組の方向性を定めます
・計画期間と統一地方選挙のサイクルを一致させることで、市政運営の方針とも整合を図り、実効性を高めます

総合ビジョン
(12年)

本市が目指す将来像やまちづくりの目標などを明らかにし、長期的な視野に立ったビジョンを定めます。

総合基本計画
(12年)

総合ビジョンに掲げる将来像の実現に向け、必要な施策を体系化し、各分野で取り組む施策の方針や具体的施策の方向性、指標などを定めます。

実施計画
(毎年度策定)

総合基本計画で示された施策体系に基づき、重要度・緊急度・財政状況等を考慮しながら、実施すべき具体的な施策・事業の年次別の事業計画を示します。

